

KSKPコリアボランティア協会ニュース, No.33 (1999.2.5号)

コリアボランティア協会編集部編

発行:大阪 : コリアボランティア協会, 1999.2.11. ; 8,[2]p

請求記号:震災-7-z82

※震災関連記事のみテキスト化しています

<阪神大震災・復興支援>

被災地発、全国のみなさまへ

高齢の方への励ましの手紙や引き続きのカンパをお送り下さっている全国の皆様、変わらぬご支援ありがとうございます。絵手紙など工夫をこらした便りが毎日のように届き、97年3月からの呼びかけ以来、3千名・5千通をこえ、今も全国の子供たちの手紙の文集を携えて被災地に通り続けることができ感謝です。

仮設の全廃が公布され、被災地の状況が一変しようとしています。数年に亘って培われた人間関係が消え、都会化された市街地に子供たちの遊ぶ姿もなく、復興住宅に移っても人の温もりからは隔絶されてしまいます。また支援の手も、仮設などの集中ケア型から分散され届きににくくなります。

地域のコミュニティ作りが急がれます。まず、社会的に取り残された子供たちと高齢者をつなぐ必要があります。被災地の小中学校に、文通サークルのある全国40数校との姉妹校作りと、“全国文通文集”の地域での配布及び高齢者訪問を呼びかけて行きます。よく紹介する大阪の松原第三中学や鶴橋小学校も学校ぐるみの取組みを続けています。同時に県内外のボランティアのネットワーク化も急がれます。当協会でも、震災を風化させず、教訓として生かすために、“震災チャリティ美術展”を昨年12月に大阪・池田市で開催、今年も展開して行きます。

また連帯の輪を広げるため、西代仮設・長寿友の会（神戸市長田区、長尾代表）や前述の松原第三中学などと共に、98年11月、長田小学校との手紙文集配布、建国幼小中高校でのボランティア講習会（大阪市）、12月、地元生野区とのボランティア連帯会議、仮設でのもちつきや年越しそばの炊き出し、99年1月17日、合同慰霊祭などを実施しました。今年を節目とし、毎週の被災地訪問、街頭募金によるアピール、震災をテーマとした演劇公演などを通して訴え続けます。他人事ではない震災の支援のため変わらぬご支援・カンパお願い致します。

<鄭チョン>

[写真あり “合同慰霊祭”～5回目の冬を迎えて～ 1999年1月17日、西代仮設（神戸市長田区）にて 省略]

(c)1999コリアボランティア協会編集部(デジタル化：神戸大学附属図書館)